

令和5年度 決算審査特別委員会（令和5年11月7日）

（入江晶子委員）

令和4年度における募集定員及び受験者数、合格者数及び採用者数についての状況はどうか。特に当会派では児童相談所や保健所など主に資格取得を要する専門職の人手不足への対応について問題提起してきたところだが、令和4年度の状況はどうか。

（人事委員会事務局任用課長）

競争試験全体としては、令和4年度の募集人数1,149人に対して、受験者数5,078人、最終合格者数1,574人、採用者数942人であった。

専門職としては、児童指導員について、募集人数73人に対して受験者数48人、最終合格者数29人、採用者数19人、保健師について、募集人数30人に対して受験者数38人、最終合格者数33人、採用者数22人であった。

（入江晶子委員）

合格者数が採用予定数に満たない状況、合格発表後の辞退者の発生により、採用予定数を大幅に下回る採用者数しか確保できていない状況が近年継続していることについて、どのように考えているのか。また、今後、どのように実効的な改善策を講じるのか。

（人事委員会事務局任用課長）

少子化や民間との競合等を背景に受験者数が減少し、児童指導員などの職種では採用予定数に対し採用者数が下回る状況となっており、必要な職員数の確保に向けて、受験者の増加と合格後の辞退を防止する取組が重要と考えており、喫緊の課題であると認識している。

このためには、多くの方に県の魅力や仕事内容、やりがいを伝え、県で働こうという意欲につなげることが重要であり、採用セミナーにおける相談体制の充実や大学訪問の拡大に加え、児童相談所系職種のオンライン説明会を予定しており、また、PR動画で紹介する職種を増やすなど、積極的な情報発信に取り組んでいるところである。

また、合格後の辞退防止のため、内定者が集合する説明会を行い、仕事の内容の説明などを行って不安を解消するとともに、このうち、児童相談所系の職種については中央児童相談所で開催するなど、工夫しているところである。

（入江晶子委員）

「千葉県職員しごとナビゲーター制度」を8月から行っているとのことだが、この制度が創設されてから、どの程度問い合わせがあったか。

また、受験しやすい試験方法への見直しについて、詳細はどうか。

（人事委員会事務局任用課長）

情報提供の取組として、千葉県職員しごとナビゲーター制度を8月から始めており、これまで10人の利用があった。

採用試験の見直しとしては、令和5年度に、土木及び建築職の社会人選考において、受験に必要な職務経験を13年から7年に短縮するとともに、筆記試験の専門考査を廃止した。

また、令和6年度に向けて、技術・資格免許職の第1次試験において行っている筆記による教養試験を廃止し、大学等で学んだ専門分野の知識・能力を発揮しやすく、専門性を重視した試験への移行により、民間企業志望者や社会人などの幅広い方が受験しやすいよう、試験の見直しを行っている。

（入江晶子委員）

千葉県で働きたいという、魅力ある職場の環境整備を行うとともに、専門機関である人事委員会の役割をしっかりと果たし、任命権者とともに、優秀で意欲のある人材を確保するよう、これからも努力いただきたい。